

## 災害ボランティア活動報告(No. 8)

**年月日:** 9月25日(日)～10月2日(日)

**活動場所:** 陸前高田市、大槌町赤浜地区、釜石市箱崎町、遠野市社会福祉センター内倉庫

**活動内容:** ガレキ撤去、草刈り、杉の木の皮剥き、わかめ養殖用アンカー作り

**活動拠点:** 遠野まごころネット

**参加者:** 9月25日(日)～9月28日(水) 安藤卓也

9月25日(日)～10月2日(日) 木下史典：大久保隆史：芦澤潤一

### 活動報告

9月25日(日) JR新小岩駅前に10時集合、遠野に向かう夕方6時半到着。

9月26日(月)

木下、大久保隊員は、昨日行われた大槌町のお祭りの片付けを行う。

お祭りの演台の片付け、それとタイ大使館からの差し入れで、タイ人の料理人によるタイカレーとタイラーメンの炊き出しを仮設で行い、被災者の方たちに配る手伝いをする。

芦澤隊員は、大槌町のボランティアセンターが月曜日お休みのため、陸前高田のガレキ撤去、及び草刈り。

安藤隊員は、写真班として、ガレキ撤去のさい発見された写真、日記など被災者の方々の大切な思い出の品の修復。

9月27日(火)

木下、大久保隊員は、陸前高田気仙地区で杉の木の皮剥き、地区の方々の休憩所を杉の木を使い作成するための作業。

津波で被害を受けた杉の木の有効利用である。杉は塩に弱く津波を被った杉は枯れてしまうので、その杉で休憩小屋を作ります。

杉の生木は、刃物を入れると剥けていき剥がしやすいのですが、乾燥した杉は、剥がれにくく鎌などで削っていきます。これがかなり力が入り重労働でした。



※杉の皮剥き作業をする木下隊員

芦澤隊員は、大槌町のリダーとして、ガレキ撤去、草刈りの指導監督を10月1日（土）の最後まで行う。

安藤隊員は、釜石市箱崎地区の漁業組合さんの、わかめ養殖のわかめの苗床作りをお手伝いする。

9月28日（水）

木下隊員は、昨日から引き続き陸前高田気仙地区の杉の皮剥きの手伝い。

大久保隊員は、昨日の安藤隊員同様箱崎地区の漁業組合さんの手伝い。

安藤隊員は、写真班の手伝い。

安藤隊員は、作業後、夕食のあと夜行バスで東京に帰る。

9月29日（木）

木下、大久保隊員、釜石市箱崎地区で個人様宅のガレキ撤去、草刈りを行う。

9月30日（金）～10月1日（土）

木下、大久保隊員は、釜石市箱崎地区漁業組合でわかめの苗床の筏に吊るすアンカー作りを手伝う。

わかめの苗床が流されないように紐の先に吊るすアンカーを作る。土のう袋にジャリを約50キロ詰めて作るのですが、それを約2万袋作るそうです。1日に約1,800袋作ります。

10月末までに苗床を作らねばならず大変です。

箱崎地区は、牡蠣やホタテの養殖もあるのですが、それだと3年はかかるため、すぐ現金になる、わかめ養殖をおこないます。わかめは来年の3月に出荷出来ます。

こちらでは1月になると、わかめのしゃぶしゃぶが食べられます。若いわかめを成長させるため間引きをするのですが、その間引きされたわかめを食べます。美味しいそうです。地元の郷土料理でありここでしか食べられません。ぜひボランティアとして食べに来て下さいと言われました。会員の皆さん食べに行きましょう。

箱崎地区の漁師さん達に若い方々がおられません。

話によると震災のさい津波の第一波が来た後、若い方々がお年寄りの言うことを聞かず船が大丈夫だったか見に行ったそうであり、第二波・第三波で海に流されたそうです。

自分たちの貴重な財産である船が心配で見に行った心情は分かりますが、悲惨な状況になってしまいました。

箱崎地区は、住宅が200数十棟有ったそうですが、震災で200棟が流されたそうです。

漁師さん達は、手伝いに来ているボランティアの私たちを気遣って、昼にいなだやイカの刺身を振舞ってくれました。そして、明るく振舞ってくれました。その温かい心に感謝、感謝です。



※ わかめ養殖の筏に吊るすアンカー作りを手伝う、木下、大久保隊員。  
グリーングリーン頑張ってます。

●まだまだ支援が必要です。傷の癒えない被災地。



※住宅に丸とバツが書かれています。  
これは、津波の後自衛隊や警察、消防  
や消防団が生存者確認で搜索したさい  
ご遺体が発見されたところは丸印をし  
ていき、後続部隊がご遺体を引き上げ  
たらバツ印をしていった跡です。  
そういった悲惨な爪痕がいたるところ  
に残っています。(撮影場所：釜石市)



※住宅密集地が焼け野原に。  
遠くの鉄筋コンクリのビルだけが残り  
あとは津波に流され、戦後の焼け野原  
のようになっています。  
半年が経ちぺんぺん草が生えている  
被災地。(撮影場所：陸前高田市)





※津波てんでんこ

てんでんことは、てんでんばらばらの方言です。津波が来たらてんでんばらばらに逃げなさいという昔からの箴言。

今回の津波でも、多くの方が高齢の方寝たきりの方など災害弱者を助けようとしてお亡くなりになっています。

その行動は尊いのですが、まず自分が助かりなさいと言う戒めです。

昔の方はそれを知っており。バラバラに逃げて一人でも生きていたら、その人が親族をともなえる。そういう壮絶な戒めです。

写真は報道でも有名になった『釜石の奇跡』といわれた鶴住居小学校です。隣の釜石東中学校の生徒と共に児童の被災者ゼロでした。昔の教えが生きていました。

●自然科学におけるセレンディピティであり、まだ被災地に行っていない会員さんも、新しい自分発見があると思います。今月は土日での弾丸ボランティア企画を考えているので、ぜひ参加して下さい。



※今回のミッションメンバー。

手前左から、芦澤隊員、大久保隊員、安藤隊員、木下隊員。後列左から、新規会員、榎戸孝行さん、伊藤巧さん、鹿野研史さん、菅原美緒さん。

写真には載っていませんが、新規会員になって頂いた、内藤展生さん、山田ちえさん、遠藤路子さん、など魅力のある方々に入って頂きました。

現会員の方々も友人になりたいと思う魅力のある方々です。